

研修受講のススメ

独占禁止法コンプライアンスプログラムを整備・運用するためには、経営者の皆様の「**本気のコミットメント**」が必要です。

そこで、例えば、役職員に研修受講を促す立場にある経営者の皆様が率先して研修を受講し、その上で「いかなる独占禁止法違反も許容しない」といった趣旨のメッセージを発信すれば、そのメッセージの効果はさらに強力になるものと考えられます。

経営者の皆様におかれましては、独占禁止法に関する正しい知識と最新の動向を把握するべく、独占禁止法に関する研修（社内・社外を問いません。）を積極的にご受講ください。



積極的な
研修の
ご受講を！



ご相談は
ぜひ公正取引委員会へ！

公正取引委員会は、企業や団体が今後、自ら実施しようとしている具体的な行為に関する相談を受け付けています。

判断に迷う場合等には、ぜひ公正取引委員会にご相談ください。

公正取引委員会

TEL 03-3581-5471（代表）

所在地

〒105-0001
東京都港区虎ノ門2-2-3
虎ノ門アルセアタワー

公式ウェブサイト

<https://www.jftc.go.jp/>



企業コンプライアンス関係

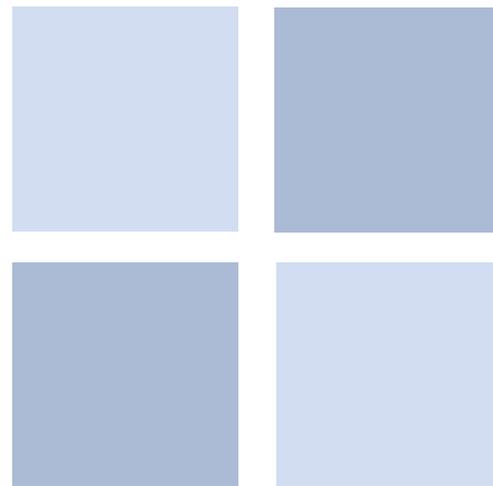
<https://www.jftc.go.jp/dk/konpura.html>



サイトTOP>独占禁止法>施策別ページ
>企業コンプライアンス関係

経営者の皆様へ

実効的な独占禁止法
コンプライアンスプログラムの
整備・運用のために



令和8年3月



公正取引委員会
Japan Fair Trade Commission

はじめに

我が国は、現在、生産年齢人口の減少等の困難な問題に直面しています。

このような中であって、我が国経済が引き続き成長していくためには、市場における公正かつ自由な競争を一層促進し、イノベーションを生み出すなどの取組を行う必要があります。

そして、日本の市場における公正かつ自由な競争を促進していくためには、個々の企業等が独占禁止法に関するコンプライアンスを推進することにより、競争的な事業活動が自律的に行われる環境を実現していくことが求められます。

公正取引委員会は、企業による独占禁止法コンプライアンスの推進を支援する観点から、令和7年6月、「**実効的な独占禁止法コンプライアンスプログラムの整備・運用のためのガイド**」（改訂版）を公表しました。

このリーフレットは、そのガイドの中から、経営者の皆様にお伝えしたいことをピックアップしたものです。

このリーフレットが皆様の企業経営の一助となりましたら幸いです。

独占禁止法 コンプライアンスプログラムとは？

意義

企業が独占禁止法に違反するリスクや独占禁止法に違反した場合に負担することとなる不利益を適切に回避・低減するための仕組み・取組のことをいいます。

プログラムの構成要素

プログラムの構成要素は、以下の4つです。

- ① 全般的な取組（経営トップの関与、リスク評価等）
- ② 違反行為の未然防止策（社内研修、相談体制等）
- ③ 違反行為の早期発見と的確対応のための施策（監査、内部通報制度、社内リニエンシー等）
- ④ プログラムの定期的な評価とアップデート

プログラム整備・運用のメリット

プログラムを実効的に整備・運用することは、単なる法令遵守を超え、下記のとおり企業価値の維持・向上にもつながります。

- 違反リスク、違反に伴う巨額の課徴金等や信用の失墜といった直接的・間接的な不利益を回避・低減できます。
- 役職員の意識・知識が向上し、公正な競争に正面から向き合う文化が醸成されることで、競争力のある商品・役務が生まれ、企業の持続的な成長につながります。
- 経営層を含む役職員の倫理的な行動は、企業の評判やステークホルダーからの信頼を高め、優秀な人材の確保にも寄与します。

経営者の皆様にしかできないこととは？

日々報道される企業の不祥事...
その発生の原因に、風通しの悪さ、企業風土が挙げられることがあります。

各企業の文化や企業風土、個々の役職員のコンプライアンス意識は、通常、経営者の皆様の意向や姿勢の影響を強く受けると考えられます。

経営者の皆様におかれましては、独占禁止法コンプライアンスプログラムの整備・運用に**本気**で取り組んでいることを**ご自身の言動**でお示しいただければと存じます。

=具体的な行動の例=

- 役職員に対する明確なメッセージの発信
- 独占禁止法コンプライアンスプログラムの整備・運用の担当部門・担当者に十分な権限とリソース（予算・人員・設備等）を配分
- 独占禁止法コンプライアンスの推進状況を社外のステークホルダーに向けて発信



あなたの本気の
言葉と行動が
会社を変えます！

